

蒲生干潟の植物①

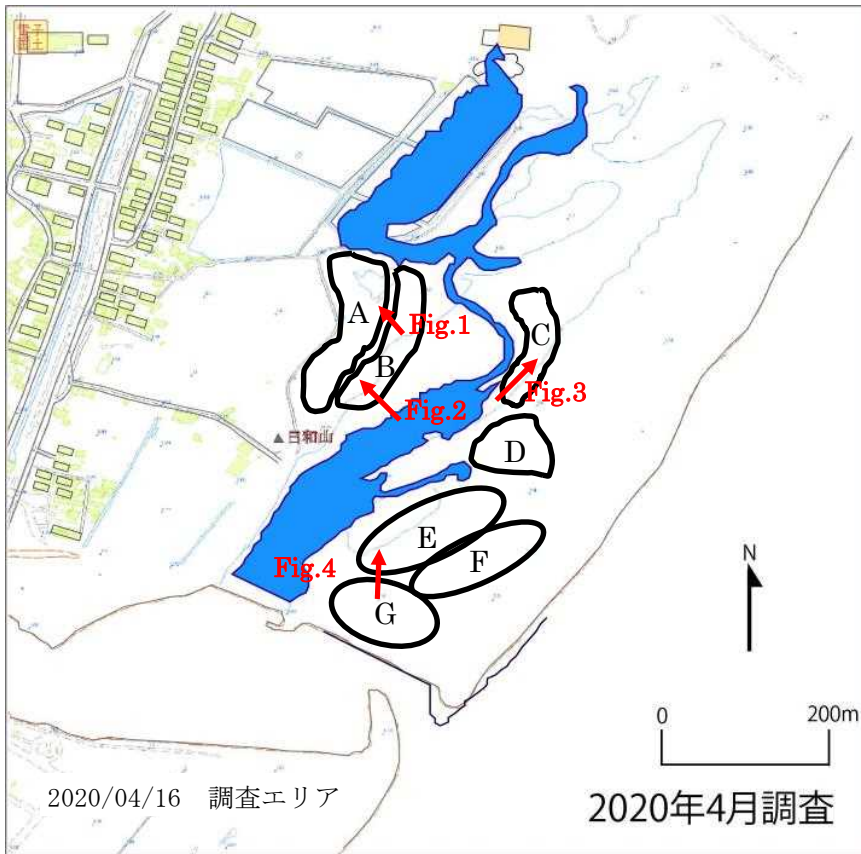


Fig.1 エリアAを南東側から撮影



Fig.2 エリアBを南東側から撮影



Fig.3 エリアCを南西側から撮影



Fig.4 エリアEを南側から撮影



Fig.5 エリアFで撮影



Fig.6 エリアGで撮影

調査日時：2020年4月16日（木）9:30～11:30，天気：晴れ

植物の分布に注目しながら、潟湖周辺の植生を調査した。Fig.1のように、エリアAを南東方面から見ると枯れたヨシ原が広がっていた。そのヨシ原より水辺に近いエリアBでは、昨年花を咲かせたハマツナが立ち枯れている合間に、ハマツナの淡い緑の新芽が生えてきている（Fig.2）。エリアCには、ハマニンニクが群生していたが、穂の部分は枯れていたが、根元から新しい葉が青々と生えてきている様子が見られた（Fig.3）。足下を見ると、その砂地部分ではハマヒルガオやハマニガナの小さな若い葉がところどころ顔を出していた。エリアDは、エリアAと同じように枯れたヨシ原があったが、エリアAよりは規模が小さい。エリアEはエリアBと同じようにハマツナが立ち枯れし、新芽も見られた（Fig.4）。エリアFでは枯れたコウボウムギが群生していたが、ところどころ若いコウボウムギが穂を出し始めている（Fig.5）。エリアGには乾燥した砂地が広がり、ハマヒルガオ（Fig.6）やハマニガナの若い葉がたくさん見られた。

（丹野美紀）